



**Data**

監督: ルーベン・フライシャー  
原作: デイビッド・ミッチェルニー  
トッド・マクファーレン  
出演: トム・ハーディ/ミシェル・ウィリアムズ/リズ・アーメッド/スコット・ヘイズ/リード・スコット

### ■ショートコメント■

◆「ヴェノム」って一体ナニ?それは、マーベル史上最も人気の高いキャラクターの1つ。当初はスパイダーマンの“悪役”として登場していたが、読者たちがそのキャラに惚れ込んでいくうちにその人気は急上昇したらしい。ふーん、そうなの。しかし、その「ヴェノム」の風貌は?能力は?特技は?

◆“ヴェノム”のキャラが特異なのは“共生性”。つまり、強力なパワーを持つ“地球外生命体”であるヴェノムが、人間の身体の中に入って“共生”することによって、“俺たち”がヴェノムになるらしい。

その地球外生命体の元になるのは“シンビオート”と呼ばれるドロドロの液体状のものだが、それに身体を提供するのがジャーナリストのエディ (トム・ハーディ) だ。その結果 “俺たちは——ヴェノムだ”と名乗ることになるのだろうが、ああややこしい。そこにたどり着くまで、私はもう腹いっぱい……。

◆ヴェノムと一体化し、共生する硬派のジャーナリストであるエディに敵対するのは、誰もが望む歴史的な偉業を目指して、日夜研究に励んでいる「ライフ財団」のボスのカールトン・ドレイク (リズ・アーメッド) だ。その他、本作にはエディの元恋人で弁護士のアン (ミシェル・ウィリアムズ)、アンがエディと別れた後の新たな恋人となる医師のダン (リード・スコット)、そしてライフ財団の優秀な研究員でありながらダンのインチキ性に気付く女性科学者ドーラ (ジェニー・スレイ) らが登場し、それなりのストーリーが展開していく。

しかし、導入部のエディとアンのイチャイチャぶりと一気の別れは、どこにでも転がっ

ている“痴話ゲンカ”だし、その間に着々と進められているライブ財団の研究も私にはイマイチ現実感が感じられず、いかにもマンガっぽい。また、ドーラによるドレイクへの裏切りとエディへの接近も、どこか現実味が乏しいストーリーになっている。そのため「ヴェノム」の姿が登場するまでに、既に私にはゲンナリ感が・・・。

◆とはいっても、本作は全米初登場第1位！記録を喰い尽くし、全世界で〈ヴェノム〉旋風を起こした、らしい。そして、日本でも公開されるや、興行収入ナンバー1をひた走っているらしい。しかし、本作中盤にやっとスクリーン上にお目見えするヴェノムの姿は？また、その声を通したエディとの共生ぶりは？

本作は「俺たちは——ヴェノムだ」と名乗りを上げるヴェノム誕生の映画で、シリーズ第1作になるもの。したがって、本作が人気になればシリーズ化がされ、第2作、第3作と続くのは今から織り込み済みだ。そのため、本作ではラストに字幕が流れ始めても、次作への予告編的映像が流れるから絶対に席を立ってはダメ。もっとも、それは本作を面白いと思ひ、本作を期待する人だけのことだが・・・。

2018（平成30）年11月14日記